

プレゼンテーション 13

「クエイト石油の

LPG開発プロジェクト・輸出計画に関する最新状況」

クエイト石油 ナフサ・ガソリン・LPG 国際販売部長

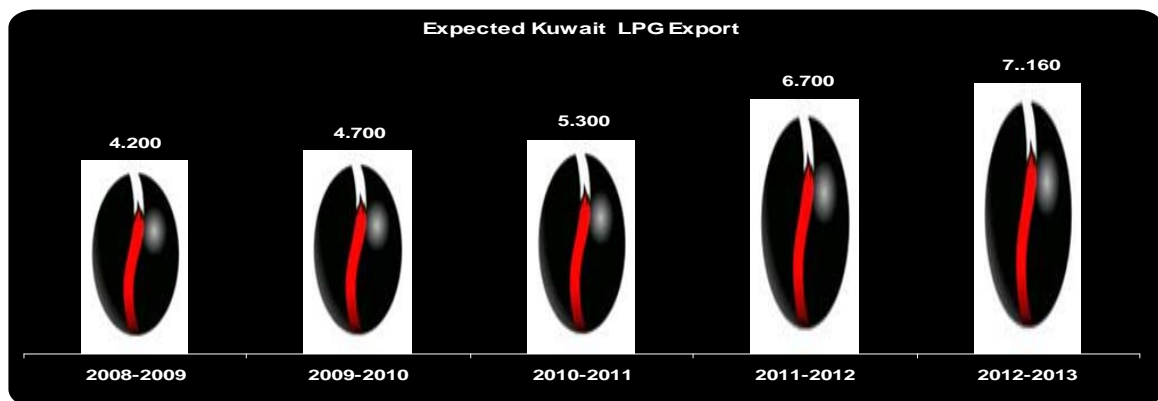
モハメッド・アル・ハドラク 氏



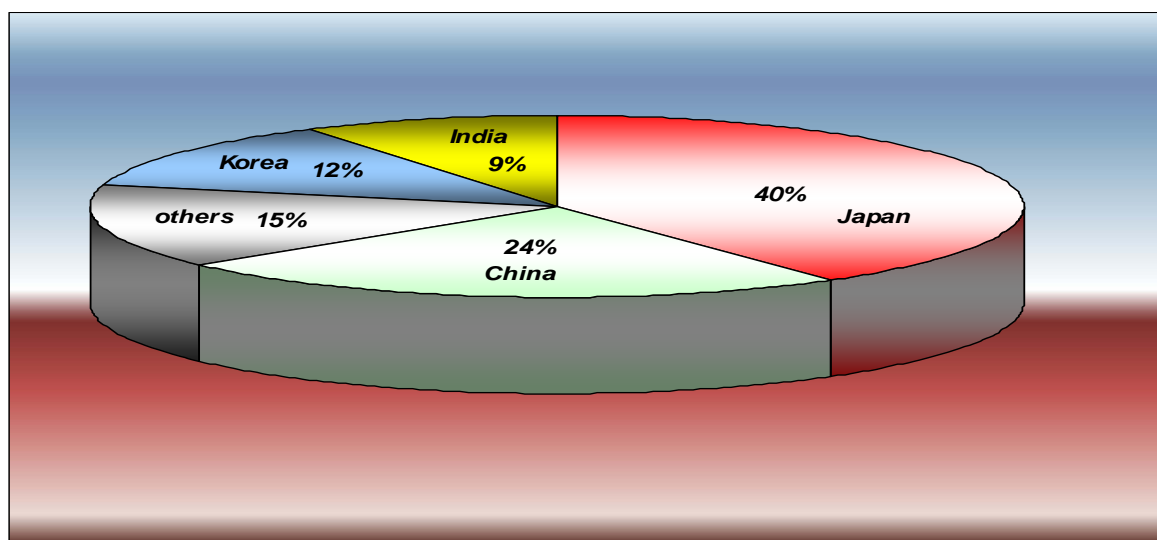
○今日は、クエイトの最新の状況、クエイトのLPGプロジェクトについて、輸出余力について、そして2007年のポートフォリオとフリートについてお話ししたい。

○クエイトは現在、三つのガストレインを持っており、二つはフル稼働しているが、一つは待機中。今後、随伴ガス、構造ガスの生産が増えることから、三つのトレインは今後フル稼働になると見られている。そういったことから四つ目のトレインがあることが極めて重要になる。フレアリングにするようなプラントにおける障害に対応し、経済的な、または環境的な損失を防げる。既存の三つのLPGトレインは今後、改良を予定しており、LPGの含有硫黄分を減らしていきたい。新しいトレインにより、クエイトにおけるLPG生産は、2011～2012年のころまでに約100万トン増える見通し。

○向こう5年の見通しは、随伴ガス、構造ガスをもって生産が増える見込み。2007年についてはご懸念がある方もあったかと思うが、2007年の輸出は3.8百万トンとなり、2008/2009年に増える見込みです。フリーガスプロジェクトの計画があるため、これは2008年の第2四半期に始まる予定。また随伴ガスの追加生産、コンデンセートの追加生産が2009年に予定されており、これはクエイトの原油の輸出設備の増強に伴うものです。これに加え、先程申し上げた新しいLPGトレインにより2011/2012年にかけて、生産量は約100万トン増える見通し。



○私どもの2007年の販売先ポートフォリオを見ると、日本が大きなシェアを占め、40%となっている。KPCのポートフォリオは今でも輸出が大きく占めており、日本向けは40%、また韓国、中国は合わせて全輸出量の36%ほどを占めた。KPCは引き続き、機敏にマーケットに反応し、このように絶えず変化している時代において、お客様の要望にお応えしていきたい。



○KPC/KOTCのオイルタンカーに関しては、現在4隻のVLGCを持っている。ガザルクエイト、ガザルニガ、ガザルグレイン、ガザルモトラの4隻で、ガザルクエイト、ガザルニガについては、2007年に引き渡しされた。

○また、LPGのバースが二つ、Abd Allah と Mina al Ahmadi にあり、これら二つがあることで、LPGのオペラビリティや安全性の基準に応じて、柔軟性を持って船積みができる。

質疑応答 13

(質問者A) LPGガスの輸出余力は2007年に比べて、2008年は増えるということでしょうか。

(ハドラク氏) 遅れるという話をしてきました。第2四半期にずれ込む可能性があります。また、第3四半期になる可能性があります。LPGの生産者のほとんどが、ほとんどのプロジェクトを遅らせ、延期させています。クエイトから新しいLPGは、いずれ今後出る見通しだということです。

(質問者B) サルファーコンテンツを 30ppm にと言われましたが、これはいつごろそのようになると考えられますか。

(ハドラク氏) この改良作業は今も行われています。プロジェクトが展開中です。2008年には、この作業が完了すると思います。